

ハンフォード市訪問団派遣事業に参加して

牧 早苗

何事も経験したり関わらなければわからないものですが、今回ハンフォード市訪問に参加させて頂き、沢山のことを学びました。せたな町とカリフォルニアのハンフォード市が姉妹都市というのは漠然と知っていましたが、それは瀬棚商業高校の見学旅行先ということくらいで、それが旧瀬棚町からの交流で今年で20年であるということを初めて知りました。(瀬商の訪問は、平成11年より10回目)

昭和30年代、不況で瀬棚町が苦しんでいる時、ハンフォード市から酪農業のために20頭の優秀なホルスタインが無償で供与され、このことが縁で平成3年に提携されたことなど私は旧瀬棚町出身なのに全然知りませんでした。

でも、米国に行ってみたい、ホームステイして米国人の生活を体験したいと強く思い、訪問団に参加しました。ハンフォードでのホームステイは、とても有意義なものでした。私のホームステイ先の奥さんは日本人で、この交流の通訳をされている方でボランティア活動にも積極的な美奈子ワリスさんとおっしゃいます。美奈子さんとは、米国の方と結婚しそこで生活してきて良い所、悪い所をお話しできて良かったです。

良い所

1. 一般的に(食品、家、その他)が安い
2. 高校、大学に入学するのが容易
3. 親せき、近所の関係がネチャネチャしていない
4. 女性に対する差別が重大でない

悪い所

1. 安全性の問題
2. 車を持っていないと不便
(ちなみにワリス家は、車3台とでっかいキャンピングカー有)
3. 日本人の方が常識がある
4. 日本に思うままに帰れず家族・友人にあまり会えない

良くも悪くもある点は、人々は仲良くするよりも個人主義を強調する。

私が5泊6日お世話になって感じたことは、家の中は余計なものはなくきれいに整頓されていて、庭にはプールが有り、一週間～10日間の休暇をまとめて取り釣りやキャンプにでかけるなど、とてもスマートに暮らしています。そして主婦にとって家事が機能的、合理的にできるように設備が整っています。汚れた食器は大まかに汚れを流し、あとは食器洗浄機にまかせると洗い、乾燥、保管をしてくれて楽ちんです。シンクには、ディスポーザーと呼ば



れる生ゴミを粉碎するものがついています。(チキンの骨もそのまま流してOKです)洗濯物は、ほとんどの物は乾燥機でかわかし、外に干す手間はかかりません。あとなんととっても御主人のダンがよく手伝ってくれて料理をしたりゴミ出ししたり、それは手伝いというより、できる人がするという観点で米国では特別なことではなく一般的なことで、女性に優しくするというより「人間の平等」という精神からのようです。今は、ほとんどの女性が働く

時代なので、家庭の責任に夫も率先して参加し、二人で担っているのをすごく感じました。

美奈子さんとダンには、大学生の息子さんのクリスがいます。やはり米国も日本とかわらず大学を卒業してもすぐに仕事を見つけるのは容易ではないようです。看護師が少ないこと、今の世界はコンピューターでもっていることと合わせ、医療またはコンピューター専攻が大変有利とのことです。幸いクリスは、コンピューター専攻なので美奈子さんは喜んでます。

ダンのお兄さんのキャリアは小学校の先生で、瀬棚商業高校が閉校すると聞いて高校の先生達が無職になるのではと心配していました。ハンフォードでは学校が閉校すると職がなくなり、自分で新しい勤務先をみつけなくてはなりません。日本はそうでないと言うと安心していました。週末は、ダンのお兄さん夫妻(キャリアとグレイス)とブルーエンジェルのエアショーを見に連れて行ってもらい素晴らしかったです。そこでブルーエンジェルズで航空ショーをする全米でただ一人の女性飛行士見ました。彼女は、50歳まで弁護士でどうしてもエアショーのパイロットになりたくて現在57歳で飛び回っているとのこと。

その時、50歳からでも何でもできるとガッツポーズをした美奈子さんがとても素敵でした。

もうひとつは、ハンフォード姉妹都市委員会の人々の親切を通じて、人間のあたたかさを感じたことです。ウォーミングハートという言葉は通じないのですが、お互いに身ぶり手ぶりを加えて話すと何かわかるのです。同じ人間なんだなあとつくづく感じました。毎日スケジュー



ールを組み、牛1万5千頭の大酪農場の見学、くるみ・ピスタチオの大農園では私たちに見せるために収穫の大きな機械をワサワサ動かしてくれたり、カーネギー博物館のキュートな館長さんの浪曲師さんからのハンフォード市の歴史の語り。かぼちゃ畑のかぼちゃの大砲は気分爽快で大変貴重な経験を沢山させて頂きました。

今でも目をつむると、サンフランシスコにおり立った時の青い空。ツインピークスからの情景はまるで美術館で絵画をみているような感動。

そして、ハンフォードは、牛、牛、牛……。どこまでも果てしない綿花畑の光景が浮かびます。あの広大な大地は、小さなことにこだわる自分をばかばかしくさせる力があります。そして最後に50歳にして思い切って参加した旅行で20代、30代の若いお友達ができたと。彼女たちはアナログなおばさんを助けてくれて本当に楽しかったです。

瀬棚商業高校が閉校ということで、この姉妹都市交流会がどのような形態になるかわかりませんが、できる限り私も協力したいと思います。

まずは、来年のハンフォードからの訪問を成功させましょう！

